

第23回 みんなで語ろう！ ~いなむら市長とともに 車座集会~

<フリートーク型>

と き	平成27年11月10日(火) 午後3時30分~5時		
と ころ	尼崎市立園田公民館 学習室3・4 (尼崎市食満2-1-1)		
参加者等	参加者 20人	市長ほか関係者 9人	合計 29人

1 車座集会の概要及び本日の進行スケジュールについて説明(職員)

2 市長からの説明

【ひと咲きまち咲きあまがさき 尼崎市の人口ビジョン、総合戦略】について、

- ・本市の人口については、1970年の55万人がピークとし、その後減少傾向となり2015年には45万人で概ね10万人減となっている。将来推計としては、2040年に34万人、2060年には25万人に、減少すると推定される。
- ・人口構成比においても本市が高齢化が進み、2040年に65歳以上36.3%、75歳以上が18.9%となり、全国平均レベルと推測される。
- ・本市の出生率は20歳代の若者が兵庫県や全国レベルより上回っている。
- ・20歳代前半の転入が多く、子育て世帯である30歳代及び0~4歳未満の子どもが、近隣の西宮市や伊丹市への転出が多い。
- ・高齢化については、65~74歳までは今がピークで、75~84歳は今後10年で1万人増、85歳以上は1.5倍のスピードで増加するこの85歳以上の方々に対する助成を考えていく必要がある。
- ・一方、近隣市と比較し、単独世帯(一人暮らしの世帯)の比率が高く、中でも男性の単独世帯が目立つ。これは、本市が病院や店が近く、便利で住みやすい街であることを示している。
- ・最後に、本市の人口ビジョンとして、課題であるファミリー世帯の転出超過傾向を5年後に半減し、希望出生率を2.07%まで回復するケースを目指す。

3 市民から市長と対話したいテーマを抽出

- | | |
|--|------------------|
| ・教育、強力な進学校がない...私立の誘致 | ・子ども携帯電話の使用時間と学力 |
| ・児童虐待予防...家庭の子育て力が弱いところへのサポート、地域の連携、子ども食堂 | |
| ・管理職は市内に住むべき...防災面からも交通費の面からも大切 | |
| ・阪急塚口の北側(高架に)...課題が多い | ・生活保護の高さ |
| ・健康寿命、主に男性の社会参加 | ・出産の費用のサポート |
| ・アルミ缶の回収...地域で集めているものまで持っていく人もいる。街のイメージが悪い | |
| ・街灯の高さ...低くすると明るくなる? | ・マイナンバーの安全性 |
| ・児童ホームで塾的なことをしてほしい | ・駅前保育 |
| | ・100周年 |

4 市民と市長との対話・・・テーマごとに整理して掲載

(1) 教育について

- ・ 尼崎市のビジョンは素晴らしいが、今までの市政は無為無策である。中学生まで尼崎にいるのに大学になれば出て行く。強力な進学校を尼崎のどこかに誘致することはできないか。
- ・ 教育の問題、小中学校は全国平均よりも下回っている。レベルアップしないといけないのでは。学校には市立と私立があるが、市としては公立学校の学力向上を推し進めていくことが大事だと考えている。高校や大学受験で尼崎の公立学校で大丈夫かと心配する人もいる。平成 27 年度から高校の入試制度が変わり広域となっており、尼崎の高校は利便性も高く、受験倍率が上がり、入学できないかと心配して私立受験者が増えている状態である。

公立高校のレベルは上がっているのに、中学生が市内の高校に入れるよう勉強すればよい。

学力も平均的には上がっているが、トップ層が他市より少ない。学力検査の結果を学校ごとに公表しており、確認してもらえばと考えている。

(2) アルミ缶を持っていく人について

- ・ 以前からアルミ缶を持っていく人がいるが、尼崎市でゴミ条例を作って規制はできないのか。
- ・ 地域でゴミ指導員をしており、市の担当者に意見を言うが、市ではゴミとして出したものに権利がないと言われた。家の前を出して無理なら、ゴミステーションを地域でするとか、学校へ持っていったり公園で集めるなど、取られないようにしてほしい。
- ・ アルミ缶だけでなく、ダンボールも市の回収前に業者が回収に来て、商売している。アルミ缶だけ取り締まるのは矛盾がある。
- ・ 自転車からはみ出して車が通れないくらいやっている。
- ・ 条例を作らないと無理。色々検討した上で条例を作らないと。

市へのメールでも黙って持って行く人がいて困るとか、朝早くからガチャガチャと近所迷惑していると苦情が届く。全て止めるさせるのは難しいし、根本的には規制すべきではないと考える。

元々、お金のために回収しているのではなく、環境のリサイクル促進の目的で回収している。

(3) 子どもの携帯電話使用

- ・ 中学校で携帯をする生徒が多いので、勉強が出来ないのではないかと。尼崎の公立学校は規制など縛りが多すぎるため、携帯保持者が多いのではないかと。

携帯電話の利用時間が長いのはよくないと思っているので、教育委員会と連携して取り組んでいく。

(4) 児童虐待防止

- ・ 子育て力の欠ける家庭への援助が必要であり、虐待も問題である。
- ・ 頑張れない親子がいる。子どもに朝御飯をどこかで提供する「子ども食堂」がある。

1 1 月は児童虐待防止月間である。一人親家庭が虐待に繋がることが多いので、地域で協力、子育て支援している人を探して頼む。また、支援について知らない人に知らせる。やはり食を通じて子ども達と繋がることが大事である。地域のネットワークを進めようとしているのが園田地域で、市内でトップで始めている。

(5) 市の職員は市内に住むべき

- ・ 尼崎市の管理職が市外に住んでいるが、市内に住むべきではないか。交通費もかかると思う。また、防災面においても、要員が確保しにくい状態が生じる。

尼崎市の職員募集において受験者の8割が市外、残り2割が市内在住者。職員全体で市内在住者は5割程であり、一人暮らしは別として家族がいればそれぞれの事情もあり強制はできないが、住むべきだろうという方向性はわかる。若手職員に市内に住んでもらうための制度を実施中。

(6) 阪急塚口駅北側

- ・ 阪急塚口駅を高架にしてほしい。園田が出来てなぜ塚口はできないのか。
- ・ 阪急電車の北側火事になった所、一部阪急の土地がある。その他は別の所有の土地。
- ・ 元々、阪急塚口駅付近は高架の計画があったが、地元が反対した。

(7) マイナンバー制度について

- ・ マイナンバーの安全性について心配である。
- ・ マイナンバーは出来るだけ使わないなど、自己管理が必要。プライバシー情報の流出やメリットとのバランスが不明。

(8) 街路灯について

- ・ 尼崎市は引ったくりが多いと聞く。街灯が点いているが高い所にあるので暗く低くしてほしい。子どもの通学路を優先的にLED化を進めている。街灯の高さについては、担当に伝える。

(9) 公営事業所について

- ・ 公営事業所の伊丹市開催を止めて尼崎ですることはできないのか。
尼崎市が第1 施行者で、伊丹市は第2 施行者である以上、施行権を奪う権利はない。

(10) 出産費用

- ・ 子どもを生む時に出産一時金をもらうが、病院の入院費が高くギリギリまで家にいる。何とかならないか。
全国的にお産ができる病院が限られているが、尼崎市はベット数も多く恵まれている。

(11) 100周年

- ・ 100周年。市は何をどうしようとしているのか、何をどうしてほしいのかわからない。
市民自治条例やまち大学を開校したい。また、100周年発祥の地である城内地域を整備し、民間の力も借りながら、尼崎の歴史を感じるような企画をしたい。さらに、イベント的ではなく、その時の問題意識でこれを契機に次の世代に繋げていこうとする取り組みである。

(12) その他の意見

- ・ 健康寿命を延ばすために様々な活動をしているが、公民館で参加しているのは女性ばかり。男性の社会参加できる場がほしい。